

「第2次健康あさひ21計画」

最終評価報告書

令和6年3月

尾張旭市

目次

I 最終評価の概要.....	1
1 最終評価の目的.....	2
2 最終評価の方法.....	2
3 アンケート調査の実施概要.....	3
II 最終評価結果.....	5
全体の総合評価.....	6
1 栄養・食生活.....	8
2 身体活動・運動.....	10
3 休養・こころの健康づくり.....	12
4 たばこ・COPD.....	14
5 アルコール.....	16
6 歯の健康.....	18
7 生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病）.....	20
8 健やか親子.....	24
9 食育.....	27
主な実施事業一覧（健康課）.....	29

※図・表・グラフ中の数値表記について

図・表・グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しています。そのため、端数処理の関係で合計と内訳が一致しない場合があります。

I 最終評価の概要

1 最終評価の目的

本市では、平成27年3月に「第2次健康あさひ21計画」を策定し、市民の健康づくりに関する取り組みを推進してきました。「第2次健康あさひ21計画」の計画期間は、平成27年度から令和6年度までの10年間であり、令和元年度には計画の中間評価を行いました。

本報告書は、令和6年度に第3次計画を策定するにあたり、平成27年度の「第2次健康あさひ21計画」策定時に設定した目標について、その達成状況を最終評価し、次期計画で取り組むべき課題等を整理したものです。

2 最終評価の方法

最終評価は、各種統計データや市民アンケート調査により得られた結果をもとに、「第2次健康あさひ21計画」で示した9分野の指標について評価を行いました。

策定時（平成27年度策定当初値）、中間時（令和元年度実績値）、最終時（今回の調査等実績値）の経年比較を行い、目標の達成状況を以下の判定基準により評価しています。

■目標達成度の判断基準

判定区分	判定基準	判定結果			
		再掲含む		再掲除く	
★	現状値が令和6年度目標値を達成している（達成）	29	(改善) 69	24	(改善) 58
◎	現状値が令和6年度目標値の50%以上達成している（改善）	22		18	
○	現状値が令和6年度目標値の50%未満達成している（やや改善）	18		16	
×	現状値が策定時より悪化または低下している（悪化・低下）	38		34	
—	判定ができない（判定不可）	1		1	
合計		108		93	

3 アンケート調査の実施概要

(1) 調査の目的

「第2次健康あさひ21計画」の最終評価と次期計画の策定に伴い、市民の健康状況、健康づくりの意識・活動、生活習慣等に関する実態を把握し、その結果を次期計画策定や施策の立案に活用することを目的として市民アンケート調査を実施しました。

(2) 調査実施期間

令和5年11月1日～11月17日

ただし、乳幼児保護者については 令和5年10月17日～12月12日

小中学生については 令和6年1月19日まで

(3) 調査対象・調査方法・回収結果

調査対象	調査方法	配布数	回収数	回収率
妊婦	郵送による配布・回収	200人	116人	58.0%
乳児保護者	健診時に直接配布・ 郵送による回収	233人	136人	58.4%
幼児（1歳～3歳児）保護者	健診時に直接配布・ 郵送による回収	234人	91人	38.9%
小学2年生	学校を通じてWEB回 答（2校）	199人	134人	67.3%
小学5年生	学校を通じてWEB回 答（2校）	191人	175人	91.6%
中学2年生	学校を通じてWEB回 答（1校）	238人	204人	85.7%
17歳	郵送による配布・回収	300人	108人	36.0%
市民（20歳から70歳代）	郵送による配布・回収	1,400人	571人	40.8%
合計		2,995人	1,535人	51.3%

II 最終評価結果

全体の総合評価

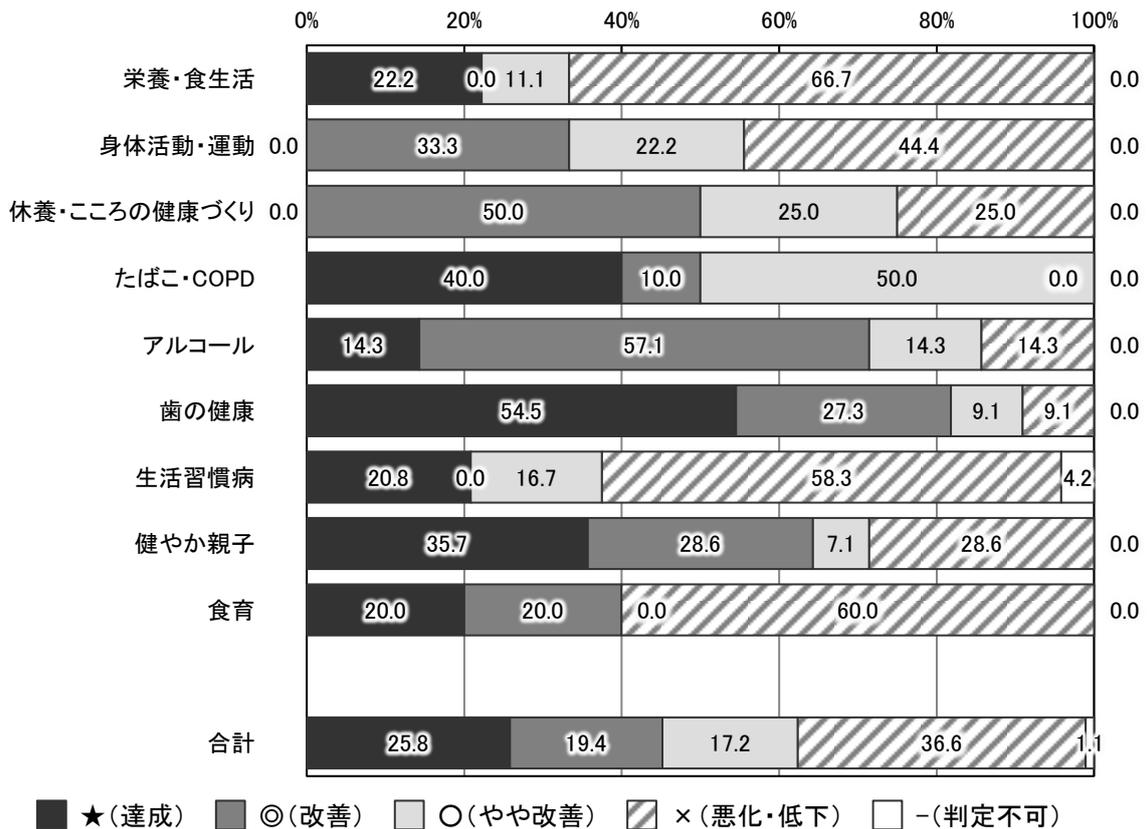
目標の達成状況を全体で見ると、「★（達成）」「◎（改善）」「○（やや改善）」を合わせた、一定の成果がみられた項目の割合は62.4%となっています。

特に改善以上の割合が高い項目は「たばこ・COPD」「歯の健康」「アルコール」「健やか親子」となっています。一方で、改善の割合が低く、悪化の割合が高い項目は「栄養・食生活」「生活習慣病」「食育」となっています。

■全体の評価結果

区分		★ (達成)	◎ (改善)	○ (やや改善)	× (悪化・低下)	- (判定不可)	合計
栄養・食生活	指標数	2	0	1	6	0	9
	割合	22.2%	0.0%	11.1%	66.7%	0.0%	100.0%
身体活動・運動	指標数	0	3	2	4	0	9
	割合	0.0%	33.3%	22.2%	44.4%	0.0%	100.0%
休養・こころの健康づくり	指標数	0	2	1	1	0	4
	割合	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%
たばこ・COPD	指標数	4	1	5	0	0	10
	割合	40.0%	10.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
アルコール	指標数	1	4	1	1	0	7
	割合	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
歯の健康	指標数	6	3	1	1	0	11
	割合	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%
生活習慣病	指標数	5	0	4	14	1	24
	割合	20.8%	0.0%	16.7%	58.3%	4.2%	100.0%
健やか親子	指標数	5	4	1	4	0	14
	割合	35.7%	28.6%	7.1%	28.6%	0.0%	100.0%
食育	指標数	1	1	0	3	0	5
	割合	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	100.0%
合計 (再掲除く)	指標数	24	18	16	34	1	93
	割合	25.8%	19.4%	17.2%	36.6%	1.1%	100.0%

■分野別の評価結果割合

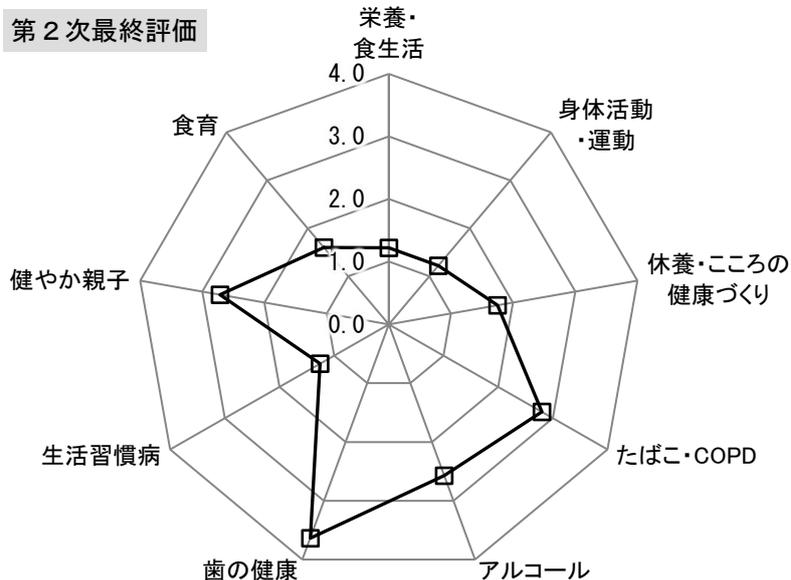


■分野別の目標達成度

最終評価時を次のように点数化し、チャートで表しました。

「身体活動・運動」「栄養・食生活」「生活習慣病」「食育」「休養・こころの健康づくり」の分野で点数が低くなっています。

★ (達成) を5点、◎ (改善) を3点、○ (やや改善) を1点、× (悪化・低下) を0点とし、各分野の指標数 (判定不可のものを除く) で割ることで、平均を算出。



1 栄養・食生活

(1) 評価結果

指標

目標項目	実績値			目標値 (R6)	達成 状況	
	基準値	中間値	現状値			
	策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)			
◆適正体重を維持している人の増加						
中等度・高度肥満傾向児 ^{※1} の割合	小学生男子	4.6%	5.7%	7.7%	4%以下	×
	小学生女子	3.4%	5.0%	5.8%	3%以下	×
やせ過ぎ者の割合 (BMI 18.5未満)	20歳代女性	31.9%	31.8%	28.9%	15%以下	○
肥満者の割合 (BMI 25.0以上)	20~60歳代 男性	21.3%	27.0%	34.1%	18%以下	×
	40~60歳代 女性	11.6%	11.1%	12.9%	8.5%以下	×
低栄養傾向高齢者の割合 (BMI 20.0以下)	65歳以上	24.7%	20.6%	12.6%	17%以下	★
◆朝食を欠食する子どもをなくす						
朝食を欠食する人の割合	1~3歳児	1.3%	1.0%	0.0%	0%	★
	中学生	0.8%	3.9%	3.9%	0%	×
	17歳	1.1%	4.9%	2.8%	0%	×

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	2	0	1	6	0	9
割合	22.2%	0.0%	11.1%	66.7%	0.0%	100.0%

※¹ 中等度・高度肥満傾向児

肥満傾向児とは、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。特に、肥満度が40%以上50%未満の者を中等度肥満傾向児、50%以上の者を高度肥満傾向児という。

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 小学生の中等度・高度肥満傾向児の割合は、男女ともに増加しています。
- 20歳代女性のやせ過ぎ者の割合は、やや減少しているものの、目標値には達していません。
- 肥満者の割合は、20～60歳代男性、40～60歳代女性ともに増加となっており、いずれも目標値には達していません。
- 低栄養傾向高齢者の割合は中間評価からさらに減少し、目標値を達成しています。
- 朝食を欠食する人の割合は、1～3歳児で目標値を達成しています。また、中学生はほぼ横ばい、17歳は中間評価からは減少しているものの、いずれも目標値は達成していません。

【今後の課題】

肥満者、朝食欠食者の割合が目標を達していません。近年の社会的・経済的变化により、外食の増加や、パソコンやスマートフォンを使用する時間が増え、運動不足や不規則な生活習慣が拡大していることが考えられます。また、新型コロナウイルス感染症により、外出機会の減少や食事の節制ができなくなったりした影響も考えられます。本市では市外に通勤・通学している人が多いことが推測されるため、通勤時間の長さ等が不規則な食生活や食事の時間につながらないよう、働き方やライフスタイルの変容と一体となった食生活の改善が課題です。

健康的な食生活の重要性を広めるために、栄養や食生活に関する啓発活動が必要です。特に健康への意識が低い若い年代に対する啓発が必要です。

肥満や低栄養など、年代や性別、生活習慣によって課題が異なることから、個々の状況やニーズにあった支援を提供することが重要です。

POINT

- 肥満傾向児の増加や子ども、若年者の朝食の欠食等がみられることから、子どものうちからの健康教育や食育推進、保護者への働きかけをより一層行う必要があります。
- 男女ともに肥満者が増加していることから、対象ごとの支援を提供する必要があります。

2 身体活動・運動

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆意識的に運動を心がけている人の増加						
意識的に運動している人の割合	男性	54.6%	51.6%	52.3%	63%以上	×
	女性	46.1%	45.5%	50.2%	63%以上	○
◆運動習慣者の増加						
運動習慣者の割合	20～64歳 男性	17.5%	16.0%	23.0%	28%以上	◎
	20～64歳 女性	12.1%	10.3%	18.0%	22%以上	◎
	65歳以上 男性	46.9%	49.0%	54.9%	57%以上	◎
	65歳以上 女性	45.5%	35.2%	40.2%	56%以上	×
◆何らかの地域活動を実施している人の増加						
地域活動を実施している人の割合	60歳以上 男性	34.5%	37.1%	27.9%	50%以上	×
	60歳以上 女性	46.9%	50.8%	42.2%	<u>54%以上</u>	×
◆健康について関心をもつ人の増加						
「ロコモティブシンドローム」の認知度	成人	14.9%	25.4%	24.9%	80%以上	○

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	0	3	2	4	0	9
割合	0.0%	33.3%	22.2%	44.4%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 意識的に運動している人の割合は、男性は減少しており、女性は中間評価から増加しているものの、目標値には達していません。
- 運動習慣者の割合は、20～64歳の男女、65歳以上の男性は策定時から増加しているものの、目標値には達していません。65歳以上の女性は、中間評価から増加しているものの、策定時を下回り、目標値には達していません。
- 地域活動を実施している人の割合は、60歳以上男女ともに中間評価からは大きく減少しており、目標値には達していません。コロナ禍による地域活動の自粛の影響が大きいと考えられます。
- 「ロコモティブシンドローム」の認知度はほぼ横ばいで、目標値には達していません。

【今後の課題】

運動習慣の普及のためには、取り組みやすい運動プログラムや支援が必要です。共働きの増加や働き方の多様化により、仕事や家事、育児等で多忙な人が増加していることが考えられます。日常生活の中で運動を取り入れやすい環境の整備や、健康に関する情報を多様な媒体で発信し、いつでもどこでも利用できるようにすることが重要です。

社会的なつながりをもつことは健康に良い影響をあたえます。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動が停滞し、地域とのつながりが低下したと考えられます。一度途切れた地域活動を再開することが難しい人もいることが考えられるため、今後も一層、地域活動への参加促進が重要です。

POINT

- 仕事や家事をしながらでも市民が運動習慣を身に着けることができるような工夫が必要です。
- 地域活動は、介護予防の観点からも高齢者の参加を進める必要があるため、今後も一層取り組みを行うことが重要です。

3 休養・こころの健康づくり

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆ストレスを感じた人の減少						
過度のストレスを感じた人の割合	成人	29.8%	27.6%	28.4%	23%以下	○
◆十分な睡眠の確保						
午後10時以降に就寝する子どもの割合	1～3歳児	17.7%	14.9%	9.2%	9%以下	◎
睡眠による休養を十分とれていない人の割合	成人	41.1%	40.0%	43.9%	21%以下	×
◆困った時等に相談先がある人の増加						
困った時や心配なことがある時に相談できる人がいる割合	成人	83.2%	81.6%	86.7%	90%以上	◎

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	0	2	1	1	0	4
割合	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 過度のストレスを感じた人の割合はほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 午後 10 時以降に就寝する子どもの割合は減少しており、ほぼ目標値に近い値となっています。
- 睡眠による休養を十分とれていない人の割合はほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 困った時や心配なことがある時に相談できる人がいる割合は、策定時より増加しているものの、目標値には達していません。

【今後の課題】

午後 10 時以降に就寝する子どもの割合が減少する一方で、睡眠による十分な休養をとれていない人が増えています。睡眠時間では、「6～7 時間未満」が 35.6%と最も高く、次いで「7～8 時間未満」が 27.9%となっており、睡眠の量に問題はみられないことから、睡眠の質に問題がある可能性も推測されます。良質な睡眠のとり方についての周知啓発が必要です。

困ったときや心配なことがあるときに相談できる人がいる人の割合は増加していますが、40 歳代以上の男性で約 2 割と、他の性別、年代に比べて相談できる人がいない割合が高くなっています。誰かに相談してもよいという気運づくりや相談できる専門機関の周知を図る必要があります。

指標以外のアンケート調査結果（成人）によると、K6（こころの状態を評価する指標）の合計得点が 10 点以上の人の割合が 17.4%となっており、特に 20～30 歳代で他の世代と比較して高くなっています。地域や職場等でメンタルヘルス対策を行えるような環境の整備が重要です。

POINT

- 睡眠習慣の改善や睡眠の質を向上させる取り組みが必要です。
- ストレスを感じる人が多い 20～30 歳代の人に対し、ストレス軽減のための取り組みの強化を進める必要があります。

4 たばこ・COPD

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆未成年の喫煙をなくす						
喫煙している人の割合	中学生男子	0.0%	0.0%	0.0%	0%	★
	17歳男子	0.0%	2.0%	0.0%	0%	★
	中学生女子	0.9%	0.0%	0.0%	0%	★
	17歳女子	2.0%	0.0%	0.0%	0%	★
◆妊娠中の喫煙をなくす						
妊娠中の喫煙率	妊婦	0.9%	0.0%	0.9%	0%	○
◆喫煙者の減少						
喫煙している人の割合	成人男性	23.4%	23.3%	19.9%	15%以下	○
	成人女性	6.3%	3.4%	5.9%	1%以下	○
◆子育て家庭において同居家族に喫煙者がいる家庭の減少						
喫煙者が同居している割合	乳児	37.1%	33.3%	32.4%	20%以下	○
	幼児	32.5%	31.4%	20.2%	20%以下	◎
◆たばこの害について関心をもつ人の増加						
「COPD」の認知度	成人	19.3%	17.7%	20.6%	80%以上	○

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	4	1	5	0	0	10
割合	40.0%	10.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 喫煙している人の割合は、中学生の男女、17歳男女のいずれも0.0%と目標値を達しています。
- 妊娠中の喫煙率は0.9%と、喫煙している妊婦がみられます。
- 喫煙している人の割合は成人男性で減少しているものの、目標値を達成していません。成人女性は中間評価から増加しており、目標を達成していません。
- 喫煙者が同居している割合は、乳児、幼児ともに減少していますが、目標値を達していません。なお、幼児はほぼ目標値に近い値となっています。
- 「COPD」の認知度は、中間評価から増加しています。

【今後の課題】

未成年者の喫煙者の割合はいずれも0.0%となっており、たばこが子どもの発育や胎児に及ぼす影響について意識が高まっていることがうかがえます。指標項目以外のアンケート調査結果（成人）によると、喫煙者のうち、禁煙を希望する人が約半数となっています。禁煙外来を行っている医療機関との連携により、治療費助成制度のさらなる周知を図るとともに、禁煙を望む人を支援する取り組みが求められます。

子育て家庭において喫煙者がいる家庭は減少していますが、目標達成には至っていません。また、指標項目以外のアンケート調査結果（成人）より、家庭以外での受動喫煙の機会について、飲食店が28.8%、娯楽・商業施設が18.5%となっています。受動喫煙による健康への影響について、企業や地域等と連携し、さらなる周知が必要です。

POINT

- 引き続き未成年や妊婦の喫煙者をゼロにすることをめざし、啓発や情報提供を進める必要があります。
- 禁煙を望む人を支援するとともに、禁煙を望まない人に対しても、環境の整備やたばこが身体に及ぼす影響に関する正しい知識の発信が必要です。

5 アルコール

(1) 評価結果

指標

目標項目	実績値			目標値 (R6)	達成 状況	
	基準値	中間値	現状値			
	策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)			
◆未成年の飲酒をなくす						
飲酒したことがある人の割合	中学生男子	24.4%	11.0%	8.5%	0%	◎
	17歳男子	31.8%	15.7%	9.8%	0%	◎
	中学生女子	12.8%	7.9%	4.2%	0%	◎
	17歳女子	33.3%	9.4%	3.8%	0%	◎
◆節度のある適度な飲酒をする人の増加						
1日当たり純アルコール量が 40g以上の割合	成人男性	23.8%	28.9%	22.6%	15%以下	○
1日当たり純アルコール量が 20g以上の割合	成人女性	8.1%	16.8%	16.9%	6%以下	×
◆妊娠中の飲酒をなくす						
妊娠中の飲酒率	妊婦	0.0%	0.0%	0.0%	0%	★

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	1	4	1	1	0	7
割合	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 未成年で飲酒したことがある人の割合は、中学生男女、17歳男女のいずれも減少し改善していますが、目標値には達していません。
- 1日当たり純アルコール量^{※2}が40g以上の成人男性の割合は、策定時、中間評価からは減少しているものの、目標値には達していません。また、1日当たり純アルコール量が20g以上の成人女性の割合は、中間評価からはほぼ横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 妊娠中の飲酒率は0.0%と、目標値を達成しています。

【今後の課題】

未成年で飲酒したことがある人の割合は減少しているものの、0.0%には達していないことから、引き続きアルコールが子どもの発育に及ぼす影響について周知を進める必要があります。

一方で、過度な飲酒^{※3}をする人の割合は成人女性で策定時より大幅に増加しています。指標項目以外のアンケート調査結果(成人)によると、1日の適度な飲酒量を知らないと回答している割合が71.0%となっており、適量飲酒に関する正しい知識の普及啓発が必要です。

POINT

○引き続きアルコールが子どもの発育に及ぼす影響について周知を進める必要があります。

○適量飲酒に関する正しい知識の普及啓発が必要です。

※²・※³ 1日当たり純アルコール量・過度な飲酒

「過度な飲酒」について、1日の平均純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性で20g以上と定義している。主な酒類の純アルコール量の目安は次のとおりである。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| ・ビール(中瓶1本 500ml) …20g | ・清酒(1合 180ml) …22g |
| ・ウイスキー、ブランデー(ダブル 60ml) …20g | ・焼酎(25度)(1合 180ml) …36g |
| ・ワイン(1杯 120ml) …12g | |

6 歯の健康

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆むし歯がない子どもの増加						
むし歯のない子どもの割合	3歳児	92.1%	93.0%	96.1%	95%以上	★
	12歳児	72.2%	77.5%	86.9%	<u>82%以上</u>	★
幼児の仕上げ磨きをしていない保護者の割合	幼児	10.7%	2.9%	2.2%	<u>2.9%以下</u>	★
◆歯の喪失防止						
自分の歯を有する人の割合	80歳(75~79歳)で20歯以上	36.4%	37.5%	56.9%	50%以上	★
	60歳(55~64歳)で24歯以上	71.6%	80.2%	77.8%	<u>80.2%以上</u>	◎
◆歯間部清掃用具の使用の増加						
使用する人の割合	成人(35~44歳)	30.0%	38.8%	51.1%	50%以上	★
	成人(45~54歳)	49.4%	32.4%	43.1%	60%以上	×
	成人(全体)	35.2%	37.6%	46.6%	50%以上	◎
◆かかりつけ歯科医をもつ人の増加						
かかりつけ歯科医をもつ人の割合	成人	69.2%	75.0%	77.1%	80%以上	◎
◆定期的に歯科健診を受診している人の増加						
年1回以上歯の健診を受けている人の割合	成人(55~64歳)	51.4%	48.9%	53.6%	60%以上	○
	成人(全体)	38.5%	37.8%	50.6%	50%以上	★

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	6	3	1	1	0	11
割合	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- むし歯のない子どもの割合は、3歳児、12歳児のいずれも増加し、目標値を達成しています。
- 幼児の仕上げ磨きをしていない保護者の割合は減少しており、目標値を達成しています。
- 60歳（55～64歳）で24歯以上自分の歯を有する人の割合は、策定時より増加しているものの、中間評価からは減少しています。また、80歳（75～79歳）で20歯以上自分の歯を有する人の割合は、大きく増加しており、目標値を達成しています。
- 歯間部清掃用器具を使用する人の割合は、成人全体では増加していますが、目標値には達していません。そのうち、35～44歳では大きく増加しており、目標値を達成しています。また、45～54歳では中間評価からは増加しているものの、目標値には達していません。
- かかりつけ歯科医をもつ人の割合は増加しているものの、目標値には達していません。
- 年1回以上歯の健診を受けている人の割合は、成人全体で大きく増加しており、目標値を達成しています。そのうち、55～64歳では目標を達してはいないものの、中間評価からは増加しています。

【今後の課題】

歯の健康に関する取り組みはおおむね改善してきています。歯間部清掃用器具を使用する人は45～54歳で減少していることから、年齢に応じて歯の健康に関する啓発を進める必要があります。

指標項目以外のアンケート調査結果（妊婦・乳幼児保護者）によると、生まれてくる子どものお口の健康について考えていることがある妊婦の割合が77.6%、「フッ化物洗口」を子どもに受けさせたいと考える乳幼児保護者の割合が83.0%、幼児保護者の割合が90.0%となっているなど、保護者の意識の高まりがうかがえます。

POINT

- 子どもの歯の健康づくりの重要性について、引き続き、妊娠期から啓発を進める必要があります。
- 青年期や壮年期の人に対し、定期的な歯科健診、正しい口腔ケアや歯間部清掃用器具の使用方法等について普及啓発する必要があります。また、その基礎づくりとして、青年期になる前の学童期から啓発をし、生活習慣として身につくよう促す必要があります。

7 生活習慣病(がん・循環器疾患・糖尿病)

(1) 評価結果

指標

目標項目	実績値			目標値 (R 6)	達成 状況	
	基準値	中間値	現状値			
	策定時 (H25)	中間評価 (R 1)	最終評価 (R 5)			
① がん						
◆悪性新生物による死亡者数の減少						
悪性新生物標準化死亡比 [人口 10 万対比]	男性	96.2	95.1	89.8	94.7 以下	★
	女性	91.5	86.4	92.3	<u>86.4 以下</u>	×
◆各種がん検診の受診者の増加						
胃がん検診受診率	40 歳以上 男女	27.9% (H24)	25.6% (H30)	20.7% (R 4)	50%以上	×
肺がん検診受診率	40 歳以上 男女	46.8% (H24)	49.6% (H30)	44.2% (R 4)	<u>52%以上</u>	×
大腸がん検診受診率	40 歳以上 男女	37.3% (H24)	40.1% (H30)	36.0% (R 4)	50%以上	×
子宮頸がん検診受診率	20 歳以上 女性	21.3% (H24)	21.0% (H30)	21.5% (R 4)	50%以上	○
乳がん検診受診率	40 歳以上 女性	14.6% (H24)	15.8% (H30)	15.2% (R 4)	50%以上	○
② 循環器疾患						
◆脳血管疾患・心疾患による死亡者数の減少						
脳血管疾患標準化死亡比 [人口 10 万対比]	男性	92.6	76.3	69.6	<u>76.3 以下</u>	★
	女性	94.1	83.6	77.5	<u>83.6 以下</u>	★
心疾患標準化死亡比 [人口 10 万対比]	男性	76.3	76.6	72.3	76.0 以下	★
	女性	81.3	80.2	80.1	<u>80.2 以下</u>	★
◆高血圧症の人の減少						
I 度高血圧以上（最高血圧 140 以上または最低血圧 90 以上）の人の割合	男性	24.3% (H23)	26.9% (H28)	26.5% (R 2)	18%以下	×
	女性	19.6% (H23)	23.8% (H28)	19.7% (R 2)	15%以下	×
◆メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少						
メタボリックシンドローム該 当者及び予備軍の割合	男性	34.5% (H23)	38.1% (H28)	41.0% (R 2)	26%以下	×
	女性	11.6% (H23)	11.4% (H28)	11.8% (R 2)	9%以下	×

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆特定健康診査・特定保健指導の実施率の増加						
特定健康診査の実施率 (国保のみ)	成人	41.2% (H23)	45.3% (H30)	45.5% (R4)	56%以上	○
特定保健指導の実施率 (国保のみ)	成人	22.9% (H23)	34.9% (H30)	23.9% (R4)	<u>46%以上</u>	○
③ 糖尿病						
◆糖尿病及び予備軍の減少						
HbA1c6.5%以上の者の うち、治療中の人の割合	成人	64.2% (H23)	54.0% (H28)	60.2% (R2)	75%以上	×
糖尿病有病者率 (HbA1c6.5%以上の 割合)	男性	5.1% (H23)	9.5% (H28)	9.1% (R2)	3.8%以下	×
	女性	2.4% (H23)	5.1% (H28)	4.6% (R2)	1.8%以下	×
	成人	3.6% (H23)	7.3% (H28)	6.8% (R2)	2.7%以下	×
◆糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少						
糖尿病性腎症による新規透析 導入患者数(3か年の平均値)	—	9人	データ 取得不可	データ 取得不可	設定なし	—
◆メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少 (※再掲)						
メタボリックシンドローム 該当者及び予備軍の割合	男性	34.5% (H23)	38.1% (H28)	41.0% (R2)	26%以下	×
	女性	11.6% (H23)	11.4% (H28)	11.8% (R2)	9%以下	×
◆特定健康診査・特定保健指導の実施率の増加 (※再掲)						
特定健康診査の実施率 (国保のみ)	成人	41.2% (H23)	45.3% (H30)	45.5% (R4)	56%以上	○
特定保健指導の実施率 (国保のみ)	成人	22.9% (H23)	34.9% (H30)	23.9% (R4)	<u>46%以上</u>	○
④ 元気まる測定						
◆「元気まる測定」を受けたことがある人の増加						
「元気まる測定」を 知っている人の割合	成人	45.7%	36.8%	33.3%	55%以上	×
「元気まる測定」を 知っており、受けたことのある 人の割合	成人	32.1%	30.8%	25.9%	40%以上	×

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
①がん						
指標数	1	0	2	4	0	7
割合	14.3%	0.0%	28.6%	57.1%	0.0%	100.0%
②循環器疾患						
指標数	4	0	2	4	0	10
割合	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	100.0%
③糖尿病						
指標数	0	0	2	6	1	9
割合	0.0%	0.0%	22.2%	66.7%	11.1%	100.0%
④元気まる測定						
指標数	0	0	0	2	0	2
割合	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
◆生活習慣病 (①～④合計、再掲除く)						
指標数	5	0	4	14	1	24
割合	20.8%	0.0%	16.7%	58.3%	4.2%	100.0%

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

①がん

- 悪性新生物標準化死亡比は、男性で減少し目標値を達成しているものの、女性は中間評価から増加しており、目標値には達していません。
- 各種がん検診受診率の割合は、胃がん、肺がん、大腸がん検診で減少、子宮頸がん、乳がん検診でほぼ横ばいとなっており、いずれも目標値には達していません。

②循環器疾患

- 脳血管疾患標準化死亡比は、男女ともに減少し、目標値を達成しています。
- 心疾患標準化死亡比は男女ともに減少し、目標値を達成しています。
- I度高血圧以上（最高血圧 140 以上または最低血圧 90 以上）の人の割合は、男性は横ばい、女性は中間評価から減少しており、いずれも目標値には達していません。
- メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は、男性は増加、女性でほぼ横ばいとなっており、いずれも目標値には達していません。
- 特定健康診査の実施率（国保のみ）は増加していますが、特定保健指導の実施率（国保のみ）は中間評価から減少しており、目標値には達していません。

③糖尿病

○HbA1c6.5%以上の者のうち、治療中の人の割合は中間評価から増加しているものの、目標値には達していません。

○糖尿病有病者率（HbA1c6.5%以上の割合）は、成人全体、男性、女性いずれも中間評価から減少しているものの、目標値には達していません。

④元気まる測定

○「元気まる測定」を知っている人の割合、「元気まる測定」を知っており、受けたことのある人の割合は、ともに減少しており、いずれも目標値には達していません。

【今後の課題】

がんの分野では、悪性新生物標準化死亡比が減少している一方、がん検診の受診率が減少している項目もみられます。がんの早期発見、早期治療のため、がん検診の受診率を高める取り組みが求められます。

循環器疾患、糖尿病の分野では、脳血管疾患標準化死亡比や心疾患標準化死亡比で目標値を達成している一方で、高血圧症の人の増加や男性のメタボリックシンドローム該当者及び予備軍の人、糖尿病及び予備軍の人の増加がみられます。今後も、高齢化等により生活習慣病に罹患するリスクの高い人が増加することが見込まれるため、生活習慣病予防の重要性の理解を高めるとともに、より具体的に市民の健康の維持・増進のための取り組みを実施するよう働きかけることが重要です。

また、特定健康診査・特定保健指導の実施率は増加しているものの、目標値には達していません。健（検）診を受診しない理由として、多忙であることや、受診の必要性を感じていない人もいるため、健（検）診の受診勧奨や、地域で市民同士が互いに受診を勧め合う気運づくりを進めることが重要です。

元気まる測定の分野では、元気まる測定を知っている人や受けたことがある人の割合が減少しています。今後も引き続き、市健康課の実施事業に関する周知や参加促進を進めるとともに、誰もが参加しやすい事業内容となる等の工夫を検討していく必要があります。

POINT

○引き続きがん検診や特定健康診査等の受診を促す必要があります。

○生活習慣病に罹患するリスクの高い人に対し、運動習慣の定着や食習慣の改善等を促すため、市実施事業の利用率を高めるための工夫等が必要です。

8 健やか親子

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆乳幼児健康診査受診率の向上						
乳幼児健康診査未受診率	3～4か月児	1.7%	2.5%	0.9%	1.0%以下	★
	1歳6か月	3.3%	2.5%	0.6%	<u>2.5%以下</u>	★
	3歳児	6.9%	2.0%	1.8%	<u>2.0%以下</u>	★
◆かかりつけ小児科医をもつ親の増加						
かかりつけの小児科医をもつ親の割合	乳児保護者	92.1%	89.8%	91.2%	100%	×
	幼児保護者	97.4%	98.0%	94.4%	100%	×
◆母性健康管理指導事項連絡カードをもつ妊婦の増加						
母性健康管理指導事項連絡カードを知っている割合	妊婦	52.1%	63.5%	67.9%	<u>74%以上</u>	◎
◆妊娠・出産について満足している親の増加						
妊娠・出産について満足している人の割合	妊婦	93.3%	97.9%	99.1%	100%	◎
	乳幼児保護者	96.6%	97.7%	98.2%	100%	○
◆子育てにストレスを感じる親の減少						
子育てにストレスを感じる親の割合	乳児保護者	65.2%	68.2%	69.9%	60%以下	×
	幼児保護者	83.1%	87.2%	83.5%	80%以下	×
子どもに対して、家族の誰かが怒鳴ったり、叩いたり、無視してしまうことがある割合	乳児保護者	6.7%	2.8%	3.0%	<u>2.8%以下</u>	◎
	幼児保護者	15.6%	5.0%	3.3%	<u>5.0%以下</u>	★
◆育児に参加する父親の増加						
育児に参加する父親の割合	乳児保護者	69.7%	65.5%	78.7%	75%以上	★
	幼児保護者	57.1%	65.7%	65.9%	<u>74%以上</u>	◎

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

目標項目	実績値			目標値 (R6)	達成 状況	
	基準値	中間値	現状値			
	策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)			
◆未成年の喫煙をなくす (※再掲)						
喫煙している人の割合	中学生男子	0.0%	0.0%	0.0%	0%	★
	17歳男子	0.0%	2.0%	0.0%	0%	★
	中学生女子	0.9%	0.0%	0.0%	0%	★
	17歳女子	2.0%	0.0%	0.0%	0%	★
◆未成年の飲酒をなくす (※再掲)						
飲酒したことがある人の割合	中学生男子	24.4%	11.0%	8.5%	0%	◎
	17歳男子	31.8%	15.7%	9.8%	0%	◎
	中学生女子	12.8%	7.9%	4.2%	0%	◎
	17歳女子	33.3%	9.4%	3.8%	0%	◎

(2)目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	9	8	1	4	0	22
割合	40.9%	36.4%	4.5%	18.2%	0.0%	100.0%

※再掲項目も含まれているため、6ページの「全体の評価結果」と異なります。

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 乳幼児健康診査未受診率は、3～4か月児、1歳6か月児、3歳児のいずれも目標値を達成しています。
- かかりつけの小児科医をもつ親の割合は、乳児保護者ではほぼ横ばい、幼児保護者では減少となっており、いずれも目標値には達していません。
- 母性健康管理指導事項連絡カードを知っている割合は増加し、改善しています。
- 妊娠・出産について満足している人の割合は、妊婦、乳幼児保護者ともに増加していますが、目標値には達していません。
- 子育てにストレスを感じる人がいる人の割合は、乳児保護者は増加しており、幼児保護者は中間評価からは減少しているものの、いずれも目標値には達していません。
- 子どもに対して、家族の誰かが怒鳴ったり、叩いたり、無視してしまうことがある割合は、幼児保護者は減少し、目標値を達成しています。一方、乳児保護者は策定時から減少しているものの、中間評価から横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 育児に参加する父親の割合は、乳児保護者では中間評価からは大きく増加し、目標値を達成しています。一方、幼児保護者は策定時から増加しているものの、中間評価から横ばいとなっており、目標値には達していません。

【今後の課題】

乳幼児健康診査未受診率は3～4か月児、1歳6か月児、3歳児ともに目標値を達成しており、乳幼児の健やかな心身の成長に対する保護者の意識の高まりがうかがえます。

子育てにストレスを感じたことのある人が増加しています。指標項目以外でのアンケート調査結果（乳幼児保護者）によると、子育てにストレスを感じる人がいる人のうち、ストレスを解消できていない割合が乳児保護者で11.6%、幼児保護者で18.4%となっており、地域や関係機関等が連携し、支援ができるような体制構築が求められます。

妊娠期から子育て期の相談窓口「あさぴー子育てコンシェルジュ」の認知度について、妊婦で52.7%、乳児保護者で63.4%、幼児保護者で64.4%（中間評価では、妊婦で35.8%、乳児保護者で46.3%、幼児保護者で35.0%）となっており、経年で比較すると認知度が上がっています。引き続き、相談や教室・講座等の開催、保護者同士で情報共有ができる場の提供等、妊娠・出産・子育てを通じた切れ目ない支援により、保護者の育児の不安や負担の軽減を図る必要があります。

また、育児に参加する父親の割合については増加傾向がみられます。共働き家庭が増加する中で、引き続き、企業への父親の育児休暇制度の充実を促進する働きかけをするとともに、育児休暇取得への啓発が求められます。また、パパママ教室の開催や父子健康手帳の交付等を通じ、父親の育児参加を促す取り組みが必要です。

POINT

- 引き続き親子の健康づくりの重要性について周知啓発を図る必要があります。
- 子育てにストレスや悩みを感じる保護者に対し、不安や負担を軽減するため、利用できるサービスや相談事業の周知等を進める必要があります。

9 食育

(1) 評価結果

指標

目標項目		実績値			目標値 (R6)	達成 状況
		基準値	中間値	現状値		
		策定時 (H25)	中間評価 (R1)	最終評価 (R5)		
◆食育に関心がある人の増加						
食育に関心がある人の割合	成人	65.2%	60.0%	60.2%	90%以上	×
◆食に不安がある人の減少						
食に不安がある人の割合	成人	35.6%	25.6%	23.7%	<u>25.6%以下</u>	★
◆朝食を欠食する子どもをなくす (※再掲)						
朝食を欠食する人の割合	1～3歳児	1.3%	1.0%	0.0%	0%	★
	中学生	0.8%	3.9%	3.9%	0%	×
	17歳	1.1%	4.9%	2.8%	0%	×
◆孤食をしている人の減少						
1日最低1食、きちんとした食事を家族等2人以上で、30分以上かけてとっている人の割合	成人	67.3%	65.4%	64.1%	80%以上	×
◆地産地消に関心をもつ人の増加						
「地産地消」の認知度	成人	80.7%	83.8%	85.5%	90%以上	◎
◆学校給食における地元産食材の使用の増加						
学校給食における愛知県内産の地場産物を使用する割合	—	57.0%	65.8%	49.3%	<u>65.8%以上</u>	×

※下線の目標値は中間評価で再設定を行ったものです。

(2) 目標達成状況

区分	★	◎	○	×	-	合計
	(達成)	(改善)	(やや改善)	(悪化・低下)	(判定不可)	
指標数	2	1	0	5	0	8
割合	25.0%	12.5%	0.0%	62.5%	0.0%	100.0%

※再掲項目も含まれているため、6ページの「全体の評価結果」と異なります。

(3) 評価と今後の課題

【評価結果】

- 食育に関心がある人の割合は、策定時より減少し、中間評価から横ばいとなっており、目標値には達していません。
- 食に不安がある人の割合は減少しており、目標値を達成しています。
- 1日最低1食、きちんとした食事を家族等2人以上で、30分以上かけてとっている人の割合は減少し、目標値には達していません。
- 「地産地消」の認知度は増加し、改善しています。
- 学校給食における愛知県内産の地場産物を使用する割合は、中間評価から大きく減少し、目標値には達していません。

【今後の課題】

食育に関心がある人の割合の減少や孤食をしている人の増加がみられる一方、食に不安がある人の割合の減少、「地産地消」の認知度が増加しています。

食の安全・安心に対する意識の高まりがうかがえる一方、「食育」に関心がある人の割合は減少しています。指標項目以外のアンケート調査結果(成人)によると、食育に関心がある人の割合は女性で71.6%である一方、男性で46.9%と、食育に対する意識が低くなっており、特に、男性を中心に、食育の重要性について周知啓発を図り、行動変容につなげる必要があります。

また、共働き世帯が増加している中、子どもの孤食や食を通じた家族間でのコミュニケーションの不足が問題となっています。指標項目以外のアンケート調査結果(小学生)によると、「いつも一人で食べる」「誰かが一緒にいる時と、一人で食べる時がある」を合わせた割合は、朝食で40.8%、夕食で12.0%(中間評価では、朝食で25.3%、夕食で6.7%)となっており、経年で比較すると増加しています。また、1日最低1食、きちんとした食事を家族等2人以上で、30分以上かけてとっている人の割合は低くなっています。誰かと一緒に食事をする(共食)の重要性について周知啓発を図る必要があります。

指標項目以外のアンケート調査結果(成人)より、地域や所属コミュニティ(職場等を含む)で共食した人の割合は37.0%となっています。近年は単身世帯やひとり親世帯が増加し、家族との共食が困難な状況にもあり、社会とのつながりの観点からも、地域等での共食をしている人を増加するための取り組みが重要です。

POINT

- 引き続き、食の安全・安心に関して、正しい情報発信を行う必要があります。
- 朝食の必要性や食育、家族や仲間と一緒に食事をする(共食)の重要性について幅広い年齢層に対し、普及啓発を図る必要があります。

主な実施事業一覧(健康課)

事業名	栄養・食生活	身体活動・運動	休養・こころの健康づくり	たばこ・COPD	アルコール	歯の健康	生活習慣病	健やか親子	食育
各種健康診査 (生活保護受給者の健康診査・肝炎ウイルス検診・ヤング健診)							○		
各種がん検診 (肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん・前立腺がん)							○		
健康手帳交付	○	○	○	○	○	○	○		
元気まる測定 (一般・親子 他)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
健康ポイントプログラム事業		○					○		
あたまの元気まる							○		
生活習慣病予防教室 (あなたのためのちよいやせ道場・STOP!糖尿病)	○	○		○	○		○		
各種事後教室 (タニタ健康プログラム教室・ヤングのうちから健康みつめ隊)	○	○	○	○	○	○	○		
らくらく筋トレ教室	○	○				○			
成人歯科健康診査						○			
禁煙外来治療費助成事業				○					
各種健康教室・健康相談・職員出前講座	○	○	○	○	○	○	○	○	
母子健康手帳交付				○	○			○	
母子保健指導 (ハイバママ教室・妊産婦栄養教室・離乳食教室 他)	○	○	○	○	○	○	○	○	
妊婦・産婦・乳児健康診査 妊産婦歯科健康診査						○		○	
利用者支援事業 (ハイリスク妊産婦等支援・産後ケア事業 含む)								○	
訪問指導 (産婦・新生児・未熟児訪問 他)	○	○	○					○	
乳幼児健康診査・健康診断 (3～4か月児・赤ちゃん育児・離乳食相談・1歳6か月児・2歳3か月児・3歳児)	○	○	○			○		○	
ブックスタート事業 (中学生のブックスタート事業 含む)								○	
子育て相談「ひよこちゃんサロン」								○	
幼児歯科健康診査 (4歳・5歳・6歳児)						○		○	
保育園・小学校歯みがき指導						○		○	
その他の歯科事業 (8020運動表彰式・公開講座 他)						○			
尾張旭市健康まつり	○	○	○	○	○	○	○	○	○
尾張旭市健康づくり推進委員会活動		○	○			○			
尾張旭市健康づくり食生活改善協議会活動	○						○		○

「第2次健康あさひ21計画」
最終評価報告書

発行：尾張旭市

編集：尾張旭市 健康福祉部 健康課

住所：〒488-0074 尾張旭市新居町明才切 57
尾張旭市保健福祉センター

TEL：0561-55-6800

FAX：0561-53-9488

発行年月：令和6年3月